

中本たか子 たかこ 小説家。明治二十六年十一月十九日山口縣生れ、
 平成二年九月二十八日歿（一九三一九）。本名タカ子。大正九年縣立山
 口高等女學校卒。小學校教員を経て昭和二年上京、雑誌『女人藝術』
 等の小説發表と、労働運動に携つて再度の檢舉服役後、轉向して所謂
 へ生産文學の作品の境地を開いた。十六年評論家蔵原惟人と結婚。戰
 後新日本文學會等への所屬の實質作家として活動。

著書『朝の無禮』（昭和五年五月十五日大人社）『現代暴露文學選集』、

『願ひ』（昭和五年七月二日改造社

『新銳文學叢書』（『南部鐵瓶十』

（昭和十二年四月一日新潮社）『新選純

文學叢書』（『耐火煉瓦』（昭和十

二年七月二十日新村書房）、『白衣作

業』（昭和十二年十一月十四日公藝社）、『第一步』（昭和十四年二

月二十日公藝社）、『島の插話』（昭和十四年五月九日新潮社）『上の

文學叢書』（『建設の閉路』（昭和十四年五月十八日春陽堂書店

『生活文學選集』（『若き愛の白』（昭和十四年九月一日教材社）、

『むくむく』（昭和十五年七月十日教材社）、『アザビと』（昭

和十五年十一月十八日モリス）、評筆論『職場』（昭和十七年二月二

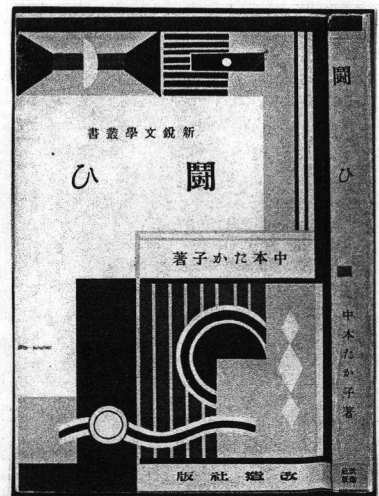
十五日教材社）、『樂式部・わかむらちまの巻』（昭和十七年七月十

日教材社）、『樂式部・まむらちまの巻』（昭和十八年二月二十日教

材社）、『前進する女たち』（昭和十八年四月十五

日金鈴社）、『新らしい情熱』（昭和十八年十一月

十日金鈴社）、『光くらし』（昭和二十一年八月一



千白京都・(二)書房)、『愛は空獄ささくえく』(昭和)二十五年一月十
百五月書房)、小説集『斗心の環』(松田解子合著・新日本文藝
支那編、昭和)二十五年二月十八日新日本文藝會)、『モスリン横丁』
(昭和)二十五年四月十日冬芽書房)、『滑走路』(昭和)二十二年九月
五日宝文館)、『不死鳥』(昭和)二十五年一月二十一日瀨生書房)、
『わたしの安海蘭亭日記』(昭和)二十八年四月五日新日本出版社)等。